



防災特集

# 地域の助け愛



問合先 危機管理課

災害対策には、

「自助」 自分自身の身の安全を守ること

「共助」 地域など周囲の人たちが協力して助け合うこと

「公助」 消防、警察、自衛隊といった行政による救助・援助の3つがあります。

大災害時は、行政が全ての被災現場に駆け付け付けることが困難であり、また行政自体も被災する恐れがあることから、「公助」だけでは限界を迎えてしまう場合があります。そのため、被害をできるだけ少なくするためには、「自助」と「共助」がとても重要となります。

「自助」は、食料や水等備蓄品を準備する、避難経路を確認しておくなど、何をするのかイメージしやすいですが、では「共助」とはどのようなことでしょうか。

具体的には、地域の団体（自主防災会・町会、民生委員、消防団、青年団など）が「平常時」には見守り活動、防災訓練などを行い、「発災時」には避難所の運営、安否確認、避難誘導などを行うことです。

「共助」は地域の団体がバラバラに活動する（安否確認を自主防災会・町会だけで行うなど）と成り立ちません。「連携・協力（地域の助け愛）」があつてはじめて力を発揮します。

みなさんの地域でも、地域の団体が地域のために活動しています。地域に住んでいるみなさんもその一員です。

今年の大防災訓練では、地域の防災訓練に参加してみる、安否確認タオルを出してみる、隣近所に声をかけてみるなど、一人ひとりができることを実践し、地域の一員として「共助」に参加しませんか。

## 大木地区土砂災害訓練

7月31日(日)、大木地区において自主防災組織、消防団、民生委員が協力して訓練を実施しました。

自主防災組織が中心となり、災害対策本部を立ち上げ、消防団が土砂災害警戒区域にお住まいの人を、安否確認のため訪問しました。



### 自主防災組織

防災訓練の実施、災害時の避難所運営など、自分たちの地域のために防災・災害対応を行います。



### 大木区長 田中 貢さん

「共助」は、地域の絆が大事です。隣近所で安否確認をするため、普段からお互いのことを知り、関係を作っておくことが必要となります。

また、自主防災組織だけで災害に対応することは非常に困難です。地区内の消防団、民生委員などと普段から連携・協力して活動しておくことが大切だと思います。



大木地区では  
地区内で協力し「共助」の取組を実施しています

### 消防団

消防署に勤務している消防職員とは異なり、消防団員は、各自の仕事をしながら、いざ火災や災害が発生すると現場に駆け付け、地域を守るための活動を行います。また、日頃から火災・災害に備え日々訓練を行っています。

大木・土丸地区の消防団である大土分団には現在30人の団員が活躍しています。



### 民生委員

高齢者の困りごと、悩み事の相談に乗ったり、月1回の見守り活動等を行っています。地域にお住まいの高齢者・障害者のことを把握してくれています。

